

第694回 新潟医学会次第

第694回新潟医学会を下記の要領によって開催致しますので何卒多数ご来聴下さいませようご案内申し上げます。

日時 平成25年11月16日(土) 午後1時から
会場 新潟大学医学部 有壬記念館

新潟医学会集会幹事

記

I. 特別講演 (午後1時～1時30分) 座長 曾根 博仁 教授(血液・内分泌代謝内科学)

「骨髄移植の進歩と今後の展開」

増子 正義 准教授(高密度無菌治療部)

1957年 E Donnall Thomas が世界で初めて同種骨髄移植を行った。結果は失敗であったがその後の20年に及ぶ研究の進展により HLA 適合性、前処置、免疫抑制という今に通じる骨髄移植の3要素が確立され Thomas がノーベル医学生理学賞を受賞したのは1990年のことであった。現在では適応拡大と成績の向上を目指し幹細胞源の多様化とともに HLA 不適合移植、骨髄非破壊的前処置、新しい免疫抑制法の試みといったこれまでの概念を超える新たな移植法が模索されている。本講演では造血幹細胞移植のこれまでの進歩と今後の展望について概説したい。

II. 特別講演 (午後1時30分～2時) 座長 井口清太郎 教授(総合地域医療学講座)

「超高齢社会における地域医療のあり方ー中山間地10年間の模索ー」

吉嶺 文俊 准教授(総合地域医療学講座)

交通網や情報通信技術(ICT)が発達しても、直接的な人と人の触れ合いは重要である。超高齢社会先進地である阿賀において、約10年間にわたり、在宅医療の推進、多職種連携および地域包括ケアへの支援、住民との対話および地域医療研修体制づくり等に取り組んできた。近視眼的な効率医療を求めるだけでなく、本当に地域の健康水準向上に繋がり、次の世代が今よりも明るく豊かな生活が送れるような地域医療システム構築につなげていきたい。

III. 特別講演 (午後2時～2時30分) 座長 西澤 正豊 教授(神経内科学)

「アルツハイマー病の根本治療開発に向けた展望」

池内 健 教授(遺伝子機能解析学分野)

アルツハイマー病の患者数は、予想を遥かに超えるスピードで増加している。この疾患を克服する上で重要な点は、簡便で汎用性のある診断技術を実現すること、そして、その診断に基づいた予防と早期の治療介入を行うことにある。診断技術としては、血液を用いた診断技術の確立が重要である。また予防介入という意味では、薬物を用いた発症前の探索的な予防介入が欧米で今年から開始されている。この二点を中心に、アルツハイマー病の根本治療開発について展望する。

IV. 特別講演 (午後2時30分～3時) 座長 藤井 雅寛 教授(ウイルス学)

「大量配列情報からの知識抽出」

奥田修二郎 准教授(バイオインフォマティクス分野)

世界で初めて全ゲノムが解読された生物種はインフルエンザ菌で1995年のことである。現在では、2000生物種以上のゲノム配列が公開されていることに加え、高速シーケンサーの登場により、ますます多くの配列情報を扱う必要が生じている。大量配列時代において、生命医学分野における計算機の役割は非常に大きくなりつつある。ゲノムからメタゲノムに至るまで、様々な切り口で生命システムを解析するバイオインフォマティクスについて紹介する。

V. シンポジウム (午後3時～5時)

司会 奥田修二郎 准教授(バイオインフォマティクス分野)

「生命システムの理解に向けたバイオインフォマティクス」

(シンポジスト)

1. KEGG:ゲノムと疾患・医薬品情報をつなぐデータベース 五斗 進 先生
(京都大学化学研究所^ハバイオインフォマティクスセンター)
2. 遺伝性疾患の網羅的エクソームシーケンスデータの解析法 重水大智 先生
(理化学研究所統合生命医科学研究センター)
3. 疾患を理解するためのネットワーク的アプローチ 菊地正隆 先生(遺伝子機能解析学分野)
4. 計算プロテオミクス:
データベースを利用したタンパク質翻訳後修飾の同定 吉沢明康 先生
(島津製作所田中先端研究所)
5. ヒト腸内細菌叢代謝機構の解明 山田拓司 先生
(東京工業大学大学院生命理工学研究科生命情報専攻)

新潟県医師会生涯教育講座の認定を受けております。

大 学 院 特 別 講 義

大学院生、学部学生の皆様、看護師、医療関係者の方々の出席を歓迎致します。無料、事前申込の必要なし。ご自由に御参加下さい。

当日は駐車場のゲートが開いていますので、医学部職員駐車場をご利用下さい。